

令和5年度
近畿大学工業高等専門学校

外部評価報告書

令和5年11月

目 次

1. 外部評価委員会	
1-1 外部評価委員名簿	1
1-2 令和5年度外部評価委員会議事概要	2
2. 質疑応答	
2-1 質問内容及び回答	4
2-2 意見内容及び回答	6
2-3 提案及び指摘事項	7
3. 授業見学及び施設見学	8

1. 外部評価委員会

1-1 外部評価委員名簿

委員長	大阪大学名誉教授 元奈良工業高等専門学校校長	たにぐち けんじ 谷口 研二
委員	豊橋技術科学大学特定教授	ふくもと まさひろ 福本 昌宏
委員	三重交通グループホールディングス(株) 代表取締役相談役	おかもと なおゆき 岡本 直之
委員	(株)三十三銀行特別顧問	たねはし じゅんじ 種橋 潤治
委員	名張市長	きたがわ ひろゆき 北川 裕之
委員	名張市議会議員	ふくた ひろゆき 福田 博行
委員	名張市教育委員会教育長	にしやま よしかず 西山 嘉一

(順不同・敬称略)

1-2 令和5年度外部評価委員会議事概要

1. 日時: 令和5年11月29日(水) 12:00~15:50
2. 場所: 近畿大学工業高等専門学校 本館2階 大会議室
3. 出席者

外部評価委員

谷口 研二	大阪大学名誉教授、元奈良工業高等専門学校校長
福本 昌宏	豊橋技術科学大学特定教授
岡本 直之	三重交通グループホールディングス(株)代表取締役相談役
種橋 潤治	(株)三十三銀行特別顧問
北川 裕之	名張市長
福田 博行	名張市議会議員
西山 嘉一	名張市教育委員会教育長

本校出席者

齊藤 公博	校長
植田 昌伸	高専担当部長
横山 良次	事務部長
鈴木 隆	校長補佐・教務主事
政清 史晃	校長補佐・専攻科長
荒賀 浩一	機械システムコース長
吉川 隆	電気電子コース長代理
船島 洋紀	制御情報コース長代理
中平 恭之	都市環境コース長代理
仲森 昌也	学生主事
松尾 大介	寮務主事
岩佐 英彦	図書館長
立神 靖久	進路指導主事代理
中村 信広 (司会)	教務主事代理
畑山 伸訓	教務主事代理

4. 議事概要

【1】開会

鈴木校長補佐から、令和5年度外部評価委員会の開会があり、日程及び配布資料の確認を行った。

【2】校長挨拶

本校校長齊藤公博から、外部評価委員に対して近大高専の近況報告、近畿大学学園の強いネットワークを持つ併設校であることに加え高等専門学校であるというを強みに学校運営を行っていることを説明した。また、高等教育機関として教育・研究などで地域貢献・地方創生につながる地域と強く結びついた学校づくりを推進することを強調した。特に、文部科学省令和5年度大学改革推進等補助金高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業に申請し、「近大高専起業家工房」を新設、ICT整備事業についても強調した。

【3】議事

令和6年度の技術者教育プログラム（JABEE）認定継続審査に向けた次の項目の概要について、鈴木校長補佐・教務主事から以下に示す（1）～（4）について説明を行った。

- (1)学習・教育到達目標の設定と公開
- (2)教育手段
- (3)学習・教育到達目標の達成
- (4)教育改善

【4】授業見学及び施設見学

授業見学では、まず本館ロビーにてEVバイク見学。その後、新設された近大高専起業家工房を紹介。3号館のPC教室、ロボット技術部全国大会出場マシン見学、ソーラーカー、図書館等の見学を行った。

【5】質疑応答及び講評

授業見学及び施設見学後に外部評価委員からの質疑応答及び講評が行われた。質疑応答の詳細は次項に示す。

【6】閉会

齊藤校長から、外部評価委員に対して謝辞が述べられ、外部評価委員会を閉会した。



会議写真

2. 質疑応答

2-1 質問内容及び回答

- (1) 平成23年度熊野から名張への移転時に教育の目的等、ポリシーの変更はなかったのか。
(谷口委員長)

(回答) 教育の目的など、ポリシーに変更はありません。(鈴木)

- (2) インターネット出願を開始されていますが、これによる効果はありましたか。
(谷口委員長)

(回答) インターネット出願を導入することにより、志願者への連絡のやりとりが簡単・効果的に出来るようになり、受験後の情報発信に役立っています。(畑山)

- (3) 教員の研究に対する評価についてもしっかりとされているのかお聞きしたい。
(谷口委員長)

(回答) 年度ごとに研究業績について確認・評価を行っております。(齊藤校長)

- (4) シラバスを活用についてのアンケート結果について、シラバスを活用していない学生の対応として、ホームページに掲載し、いつでも閲覧できるよう対応したとのことですが、いつからこのような対応をされたのか。(種橋委員)

(回答) 平成23年度以降のシラバスについて対応をしております。(鈴木)

- (5) シラバスのアンケートが実施された際には、ホームページへの掲載はあった。しかし、アンケート結果でシラバスを活用していない結果が出ていますが。(種橋委員)

(回答) 前期後期授業開始時には、シラバスは担当者から開示されており、特に近年ではGoogleClassroomなどを活用し、デジタルでの閲覧も可能です。学生は、ホームページやGoogleClassroomでいつでもシラバスを閲覧できる状態にある。シラバスを理解していない学生については、学生への周知が不足していることが考えられ、シラバスの活用を100%に近づける取り組みが今後の課題であると思われます。(鈴木)

- (6) 他のプログラム、他の高等教育機関で履修生が履修・習得した単位について、近大高専で実績例はありますか。(種橋委員)

(回答) 他の高等教育機関等での履修生が単位を取得した実績はありません。ただし、今後オンデマンド授業等を活用した単位互換などを進める可能性はあります。(鈴木)

- (7) この3年間のコロナの影響は学校にとって非常に大きな影響であったと思われませんが、特に学生への心のケアなど、近大高専で行われた対策や取り組みがあればお聞かせいただきたい。(西山委員)

(回答) 当時、登校禁止となつてからオンデマンドによる授業ばかりでした。数か月後に登校が再開されたときの学生の喜びを今でも覚えております。また、コロナの影響により、不登校など、学校に行きづらくなった学生はいなかったように思います。今回のコロナ時に実施した遠隔授業から得たものはたくさんありました。今後、不登校など、通学できなくなった学生に対して、オンデマンドを活用した支援を強化するための準備を進めております。(鈴木)

- (8) 企業との包括的産学連携で、小島プレス工業さん等記載されておりますが、このような協定は他の企業さんとも進められているのかという現状と、学生のインターンシップと地元企業との結びつきはどの程度あるのか状況をお聞きしたい。(北川委員)

(回答) 協定を結んだ上で連携している企業数は少ないです。協定を結んでいない企業、市、大学との共同研究は数多くあります。市内の企業はないと思いますが、県内の企業はあります。また、技術相談などは随時受け付けております。技術相談の内容に合わせて専門の教員を紹介させていただき、マッチングすれば共同研究につながっております。インターンシップも市内は少ないと思います。ただし、学生個人で申し込んだインターンシップもありますので全ての把握は出来ておりません。近年ですと一日のみ、WEBでのインターンシップもあります。(中平)

- (9) インターンシップは単位としては認められるのでしょうか。(北川委員)

(回答) 5日以上のインターンシップで1単位認定されます。(中平)

- (10) 履修生に対して具体的な学修を促すとありますが、具体的にどのような方法で実現しているのかお聞きしたい。(岡本委員)

(回答) 専攻科のPBL(問題解決型学習)が該当します。(鈴木)

(回答) PBLの授業では、まず問題を見つけるところが重要で、例えば身近で困った事柄について考え、それを技術で改善させる。実際に、問題提起・目標、工程表の作成、製品の作成、最後に発表会で報告、これらを半年をかけて取り組みます。(政清)

- (11) 企業でも女性役員の割合を増やす取り組みなどもあるが、女性の教職員数・役職者数については、どのようになっているのか。(岡本委員)

(回答) 女性の教職員数については、更に採用を増やしたいと考えておりますが、実際には公募数が少なく厳しい状況です。引き続き取り組みは続けてまいります。(齊藤校長)

2-2 意見内容及び回答

- (1) 2月22日に実施されている(第1次)卒業判定時の卒業人数と卒業留保の人数がほぼ同数いる。80名近くも留保をだされているにもかかわらず、卒業までの短い期間でどのように合格をしているのか疑問で違和感を感じる。(谷口委員)

(回答)大変多い人数をできる限り卒業させるために、教員一同総力戦で、個別に指導して単位を取得させています。ただ、卒業判定会議においてこのように多くの卒業留保者がいる問題を認識しております。この問題については、現在検討しており早期に対応を行う予定です。(鈴木)

- (2) データの中に女子学生、女子教員の数を載せていませんが、理工系で活躍する女子の数をアピールする意味でも意識的にデータがあってもよいのではないかと。(谷口委員)

(回答)本校の女子学生は、令和5年度には40名、率にして4.8%在籍しております。性の多様性のことなどの配慮から2つの性別で分けることが難しい状況が発生しております。(鈴木)

- (3) 学生のレポートや論文作成において、近年ChatGPTなどAIを利用する懸念があると思いますが、いろいろな問題が発生する可能性があり、将来に向けて対応を考えておいた方がよいのではないかと。(福田委員)

(回答) ChatGPTなどについては、学生たちにはAIを使いこなす力を付ける意味で、どんどん活用してもらいたいと考えております。ただし、コンプライアンスの問題はあります。そのあたりを認識しながら、学生にはAIができることはAIを十分に利用し、活用できる能力をつけてもらいたいと考えております。(鈴木)

- (4) 子供たちは、中学校を卒業して入学してくるわけですが、まだまだ未完成で不安定であります。そのあたりもさらに考慮いただきたいと願います。(西山委員)

(回答) システム的には、まずは担任の先生方がケアしながら、コミュニケーションセンター(学生支援等対応部署)を中心にして、対象学生に対して学校としての対応や学内心理カウンセラーとの面接でのケア、保護者との協力を行いながら学校生活をサポートしていきます。(齊藤校長)

2-3 提案及び指摘事項

- (1) 前回審査結果基準3-1学習到達目標の判定Cについて、よく改善されています。しかしながら、基準4-2継続的改善の判定Cについて、前回の指摘はPDCAサイクルのCAが不足しているのではないかと。これに対する改善のエビデンスとしての資料が、令和5年度の会議議事概要となっている。直近の会議議事概要ではなく、前回の受審後、直ちに改善したエビデンスが必要ではないかと。さらに、資料の内容についても改善がなされた説明として弱いのではないかと。(福本委員)

(回答) JABEE審査に向けてご指摘いただきました箇所につきまして、より改善のエビデンスとしてふさわしい資料作成をいたします。

- (2) 過去数年間における専攻科入学生について、機械工学と電子工学については、ある程度の入学生が確保されている。しかしながら土木工学については、わずかな改善が見られるもののほぼゼロに近い状態が続いている。本科からの専攻科入学生があまりにも少ない状態であるのは、問題ではないかと思われる。こちらは、改善を検討する必要があるのではないかと。(福本委員)

(回答) 本科からの専攻科入学生が少ない土木工学については、専攻科存続にかかわる重要な問題であると認識しております。本年度の入試では、専攻科全体の入学定員(16名)の充足並びに土木工学においては定員の20%(4名)以上の確保を目指した取り組みを行います。

- (3) 我が国が高度成長期に中堅技術者を育成するために開校したのが高等専門学校である。現在の社会の求める技術者として、九州・沖縄9高専では半導体に特化した人材育成を行う計画であるが、近大高専ではAIに特化した人材を育成するなど、近大高専に特化した技術者人材育成をアピールするのがよいのではないかと。例えば、パイソンなどのプログラム言語を使いこなせる人材育成を育成するなど。(福本委員)

(回答) 本校制御情報コースでは、2020年から3つの科目群「AI・ロボティクス」「サイバーセキュリティ」「WEB・CG・ゲーム」を柱に、本科卒業までにこれらに特化した能力を育成するサイバーエンジニア育成カリキュラム「忍プロジェクト」が始動しております。近大高専は、これからの社会に求められる人材育成を検討し続けてまいります。

- (4) 市内にもいろいろなものづくりの企業がある。今後、インターンシップなどでもマッチングができればぜひお願いしたいと思います。(北川委員)
三重県内・市内、地元企業への就職をさらに勧めていただきたい。(岡本委員)

(回答) 名張伊賀地区への就職者については、令和4年3月卒で14.3%、令和5年3月卒で5.9%と地元への就職状況としては難しい状況です。地元企業へのインターンシップ機会を増やすことは重要と考えております。更なる学生への周知も進めてまいりたいと考えております。

3. 授業見学及び施設見学風景



ソーラーカー



ロボット技術部（全国大会出場マシン紹介）



図書館1階



図書館2階